

# 水前寺動物園での実話より

## 特集

## 終戦の日

象のエリーも戦争の犠牲に

金澤敏雄86無職 (熊本市)

熊本動物園は1929

(昭和4)年7月、水前

寺成趣園の東側に開園。

38年3月、前年病死した

象メリーの代わりに3歳

の雌のアジアゾウ、エリ

ーが来園しました。

父は園で象を飼育し、

芸を覚えさせるための調

教をしていました。私た

ちの官舎と象舎は棟続き

で、ガラス戸1枚で仕切

られていました。エリー

と私は寝起きを共にする

友達でした。

エリーはたくさんの芸

を覚え、子どもたちを乗

せて園内を散歩し喜ばせ

ました。しかし45年3月、戦争の激化で閉園に。「象を殺して部隊の食料にする」と軍の通告がありました。

4月27日、軍は象のプールに電気を流して殺そうとしましたが、エリーは自分の運命を察知した

のか、泣き叫んでプールに近づきません。「助かった」と私は喜びました

が、それもつかの間。司令官から父に非情な命令が下ったのです。「おい

金澤、お前が殺せ」

私は目を閉じました。ドサツと大きな音に目を開けると、エリーの大きな体が倒れていました。私は悲しくて涙が止まりませんでした。エリーは10歳の若さ、在園はわずか7年でした。

当時の様子は秘密にされましたが、29年後の74年11月1日付の熊日夕刊に父の証言が掲載されま

した。「電気を通した棒の先にイモを付け、口の中に入れて殺しました。

わが子を殺す気持ちで涙が出て忍びなかつたです」。その父も72歳で亡くなりまし

た。94(平成6)年10月、

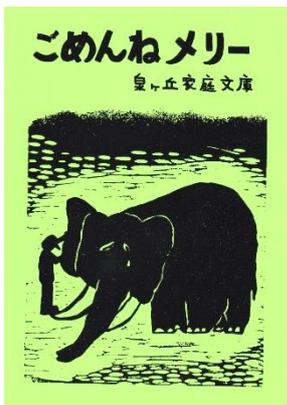
私はエリーの遺骨を40年近く供養してこられた本渡市(現天草市)の柏野季盛さんを訪ねました。下あごときゅう歯が床の間に安置されていた。線香を手向けながら「ごめんねエリー、父を許してくれ」と頭を下

げました。遺骨は翌年、熊本市に寄贈されました。

戦争は人間だけでなく何の罪もない動物たちの命も奪ったのです。無残に殺されたエリーや他の動物たちの悲劇は悔やんでも悔やみきれません。

戦争のない平和な日本であるように祈ります。

(2023.8.21 熊日新聞)



本市では、例年11月を「心かがやけ月間」と定め、子供たちに「命を大切にする心や規範意識」等を育むため、学校、家庭、地域が連携し、あいさつ運動やボランティア活動、道徳の公開授業などに取り組んでいます。その一環で、本校では昨日の学校集会で「ごめんねメリー」(泉ヶ丘家庭文庫)の絵本の読み聞かせを行い、「命の大切さ」について考えました。

「ごめんねメリー」は、投書にある実話をそのまま絵本にしたものです。戦争のとき、全国の動物園にいるライオンなど多くの猛獣たちが殺されました。これは、万が一、爆撃でオリが壊れて、猛獣たちが逃げ出すと危ないという理由からでした。日本では東京の上

野動物園のゾウの花子の話が特に有名で絵本にもなっていますが、熊本にも同じような話があったのです。

この本は、1988年、現在の動植物園の隣にある泉ヶ丘小の当時のお母さん方が、文章も挿絵もすべて手作りで作られたものです。

(手作り故に「メリーという名が実際はエリーだった」(出版後に判明)等のエピソードも書かれています。)そして、お母さん方が、なぜこのお話を絵本にしようと思われたのかについて、次のように書かれています。



エリーと飼育係の金澤氏(敏雄氏の父)

こんな悲しいことが二度と起こらないよう、子どもたちに語り継ぐため

正にこれは私たち大人の「使命」だと感じています。(本は本校の図書室にもあります。)

※ 寄贈された下あごの骨と旧歯は、動植物園の「動物資料館」で見ることができます。

## 秋空を“駆け抜けた”西原っ子たち

11/4(土)は、さわやかな秋空の下、運動会が行われ、西原っ子たちが躍動しました。

4年ぶりに全校児童が一堂に会して行われた開会式では、その挨拶の声の大きさから、子どもたちの熱気が伝わってきました。また、子どもたちからは「やる時はやるぞ!」という「集中力」が感じられ、どの



運動会で躍動する6年生

学年の演技も、これまでで一番の出来だったと思います。さらに、6年生を中心に、子どもたちが係活動や後片づけを頑張ったことで、土台のしっかりした大会になりました。

保護者の皆様も早朝より応援に駆けつけてくださり、また、後片づけにもご協力くださ



り、誠にありがとうございました。2学期も半ばを過ぎ、これから後半にかけて子どもたちの更なる成長が楽しみです。

## 西田の「西原っ子」時代(その16)

これは、昭和50年ごろの職員写真で、おそらく卒業式の日撮ったものではないかと思われます。

私の恩師である吉武トヨコ先生(後列左から4人目)と増田悟先生(同7人目)もおられ、とても懐かしい写真です。前列中央の坂崎健二郎校長先生は、全校朝会でよく「脳細胞の配線」の話をしてくださいました。右のトーテムポールは現在も正門の駐車場に残っています。また、完成して間もない東校舎がとてもきれいに見えます。



※ このコーナーでは、昭和40年代の西原小を、写真を中心に振り返ります。